

第9回九州学生トレーナー交流会レポート

令和7年8月27日（水）に熊本県玉名市の九州看護福祉大学にて「第9回九州学生トレーナー交流会」が開催された。参加校は計7校でアスレティックトレーナー、健康運動指導士などをを目指す学生が参加した。参加人数は本校の学生を含め学生85名、引率教員18名の計103名であった。本交流会のテーマは「新」。本交流会が、新たな知識や人と出会う場となり、参加した人にとって新たな一歩を踏み出すきっかけになってほしいという思いが込められている。

当日は、開会宣言、交流会大会長挨拶、顧問挨拶に続き、岡田副学長挨拶の開会式、アイスブレイク、パネルディスカッション、レクリエーション、講演会、懇親会を実施した。アイスブレイクでは、グループに分かれ自己紹介とジェスチャーゲームを行った。ジェスチャーゲームは簡単なお題から始まり、後半はスポーツに関するお題へと発展し、他校の学生と協力しながら答えを導く姿が見られ、和やかな雰囲気では交流会はスタートした。パネルディスカッションでは conditioning KULIA の中村 奈菜先生、株式会社懸け橋の梯 誠剛先生、ほねつぎ須屋鍼灸接骨院の濱砂 満男先生をお招きした。3名の先生方には各分野のプロフェッショナルになるまでのプロセス、知識や技術のアップデートの方法をテーマにお話していただいた。さらに、現在に至るまでの考え方や活動、日々の実践で大切にしていることについて伺うことができた。本ディスカッションが自身の学生生活を見つめ直し、将来を考えるきっかけとなる貴重な時間となった。レクリエーションでは、3つの救急対応の事例からその対応についてグループで意見を出し合った。例えば『気温38度の中サッカー選手が倒れた場合』では、“アイスバスを使用する”、“涼しい場所へ移動する”といった意見が多く挙げられた。その他のお題についても、「もしも」の事態が起こった時にどう動くか話し合い救急対応に対する考えを深めることができた。講演会では PRI Japan の阿部 さゆり先生をお招きし、2つのテーマでご講演いただいた。はじめに日米間におけるアスレティックトレーナーの役割の違いとこれまでの経験についてお話いただいた。続いて、バスケットボールの試合中に発生した心肺停止の事例をもとに、緊急時におけるトレーナーやスタッフが行った処置についてお話していただいた。「もしも」の時、選手の命を守るために必要な心構え・知識、技術・連携そして混乱（カオス）に対する準備の重要性を学んだ。最後の懇親会でさらに交流を深め、九州共立大学辰見先生より講評をいただいた。

今回の交流会での繋がりがこれからも続いていき、九州地区におけるトレーナーの連携がより強固なものとなり、さらに活気づいていくことを期待している。また、参加者にとってこの交流会が良き思い出となり、新たな一歩を踏み出すきっかけとなれば幸いである。

最後に、本交流会を開催するにあたりご講演をしていただいた講師の先生方、協賛・寄付をいただいた皆様、そして参加者の皆様に厚く御礼申し上げる。

（九州看護福祉大学 スポーツサポートチーム Iris3 年 実行委員長 満島 明花）

